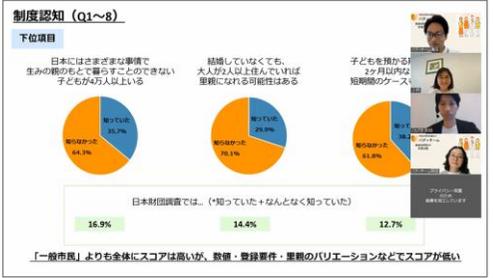


2022年度 ドコモ市民活動団体助成事業 活動成果報告書

2023/9/29

<p>団体名</p>	<p>NPO法人 パディチーム</p>	<p>活動タイトル</p>	<p>里親家庭の親子を地域で支えるための保育士・教員・学童職員むけ啓発プロジェクト</p>	
<p>望ましい社会状況および団体のビジョン（社会的役割と活動基盤）</p>			<p>■ 活動風景</p>	
<p>●地域の望ましい社会状況(ビジョン)</p>	<p>当団体のビジョンは「子ども大人も誰もが互いに支えあい、みんなで子育てすることで、子どもがすこやかに育つ社会」である。 子どもも大人も、子どものいる人もいない人も、私たち子育て支援の従事者も、誰もかみな誰かに支えられて生きている。そのことを積極的に認めあい、そうした支えあいの中で、子育てを親や家族だけに背負わせるのではなく、この世に生まれてきた子どもは社会の全員参加で育てる、そうした「みんなで子育て」する社会をめざす。</p>		<p>アンケート調査票 調査報告書をご入用の方はHPよりお問合せください</p>	
<p>●団体の社会的役割(ミッション)</p>	<p>当団体のミッションは「子育てが大変になっているご家庭へ。パディチームは、大人も子どもも「生まれてきてよかった」と思うことができ、あなたがあなたらしく生きられるように、その歩みを支えます。」と定めている。 「生まれてきてよかった」、それは過去や現在に困難があろうとも、明日と未来に安心と希望をもってほしいということ。そして「あなたがあなたらしく」、それは誰かに用意された「正しい」あり方ではなく、自らが選んだあり方で自分らしく生きてほしいということ。さまざまな背景や事情を抱えた親と子のもとへこちらから出向いて出会い、寄り添い、ともに歩むことで、そうしたメッセージを届けたいとの想いを込めている。</p>			
<p>●団体の活動基盤</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●人材：◇多様で十分な数の現場支援者◇支援の進捗を調整する常勤コーディネーター◇チームごとのマネージャー◇広報担当者、ファンドレイザー、政策提言担当者、支援のスーパーバイザー、研究職、支援者のケアを担うカウンセラー等の専門職、社内システム担当者など ●リソース：◇セキュリティについて公的に認知された情報共有・管理ツール ●活動資金：◇制度の枠から「こぼれる」家庭に対しても支援を行うため、また現場支援者やコーディネーターに対して相応の賃金を支払うための自主財源(会費・寄付・民間助成金) ●ナレッジ：◇人材の確保や育成、運営や支援のマニュアル等について、定期的に情報交換のできる他団体との連携 			
<p>■ 活動報告</p>			<p>■ 1年間の目標に対する達成状況(まとめ)</p>	
<p>■保育士・教員・学童職員むけアンケート調査 先行事例の調査・関係諸機関への調整を経て、世田谷区内の保育園・小中学校・学童・おでかけひろば職員を対象にアンケート調査を実施した。</p> <p>■保育士・教員・学童職員むけ里親/社会的養育オンラインセミナー&交流会と事後調査 アンケート調査をもとに、フォスティング機関職員・里親当事者をゲストに迎えてオンラインでのイベントを開催した。開催後、参加者の所属するおでかけひろばにて課題意識等に関するヒアリングを行った。</p> <p>■現場支援者としての活動説明会 セミナー開催後に4回の活動説明会を実施した。</p> <p>■(活動基盤の強化)フォスティング機関との定例情報交換会 定例の情報交換会という形式ではなかったが、都内5つの地域のフォスティング機関に対して対面場で本取り組みについての情報提供を行い、課題意識の共有を図った。</p>	<p>■保育士・教員・学童職員むけアンケート調査</p> <ul style="list-style-type: none"> ○実施1回/約200機関に配信 ○里親家庭について「支援者」として関わろうという意識：回答者の33.1%が1以上評価が上昇して、73.9%が評価4以上となった。 <p>■保育士・教員・学童職員むけ里親/社会的養育オンラインセミナー&交流会と事後調査</p> <ul style="list-style-type: none"> ○実施1回/24名が参加 ○里親家庭について「支援者」として関わろうという意識：回答者の26.7%が1以上評価が上昇して、100%が評価4以上となった。 <p>■現場支援者としての活動説明会</p> <ul style="list-style-type: none"> ○アンケート調査・セミナーをきっかけとした活動説明会参加者：0名 <p>■(活動基盤の強化)フォスティング機関との定例情報交換会</p> <ul style="list-style-type: none"> ○2年目以降に協働で取り組むフォスティング機関：0団体 		<p>2023/6/25 オンラインセミナー YouTubeにてアーカイブを公開しています(右QR画像)</p>	
<p>■ 事業を通じて得られたノウハウ</p>			<p>■ 望ましい社会状況を達成するための課題</p>	
<p>■アンケート調査を通じて、「一般市民」よりも「従事者」の方が里親制度に対する認知度は全体的には高く、また里子養育には難しさが伴うことそれ自体についても認知度は高いが、一方で、通称名の使用など、より具体的な生活場面についての認知度が不十分であることが明らかになった。</p> <p>また、「一般市民」も「従事者」も「里親になりたい」という意識については「子どもの背景」の情報が影響すると考えていること、「従事者」にとっては制度そのものを教材や資料で伝えるよりも、具体的な対応方法を里親子の体験談とともに伝える方が、「里親家庭の支えになりたい」という意識変容を生じやすいことも示唆された。</p> <p>■上記を踏まえて開催したオンラインセミナーでは、里親当事者から、里子の背景や具体的な生活場面の困りごと等について発信を行い、里親の「なり手」を増やすと同時に「支え手」を増やすための発信のあり方について、実践を蓄積することができた。</p>	<p>「里親になりたい」あるいは「里親家庭の支えになりたい」という意識の変容については、「子どもの背景」と「里親家庭に対する具体的な対応方法」に関する情報が肯定的に影響することが示唆されたが、関連して以下のような課題が明らかになった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■里親家庭に対する「具体的な対応方法」を、支援従事者の間で共有知としていくことが望まれる。先行する取り組みも散発的には存在しているが、フォスティング機関どうしの連携などにより、実効性・網羅性のある情報資料等を作成することが必要と思われる。 ■社会的養護となる子どもの背景、つまり子どもが「保護」となる実家庭側の困難について、プライバシーの侵害や危険に晒されることのないよう当事者を守りながら、その「解像度」を上げるための発信の試みが必要と思われる。 		<p>この1年間の活動を通じて</p>	<p>①50名の肯定的な意識変容 ②「一般市民」と比較した「従事者」の意識の可視化</p> <p>を達成しました。</p>
<p>■ 受益者の具体的な変化(自由記入)</p>			<p>■ 受益者の具体的な変化(自由記入)</p>	
<p>・オンラインセミナーの参加者からは、里親の実体験にもとづいた具体的な話を聞いて理解が深められた、という意見が多く寄せられた。 ・オンラインセミナーの事後調査(ヒアリング)を行ったおでかけひろばからは、職員むけの出張講座の依頼を得た。</p>			<p>・オンラインセミナーの参加者からは、里親の実体験にもとづいた具体的な話を聞いて理解が深められた、という意見が多く寄せられた。 ・オンラインセミナーの事後調査(ヒアリング)を行ったおでかけひろばからは、職員むけの出張講座の依頼を得た。</p>	